

# 「スーパーシティ」構想について

---



平成30年12月17日

片山 さつき 内閣府特命担当大臣（地方創生）

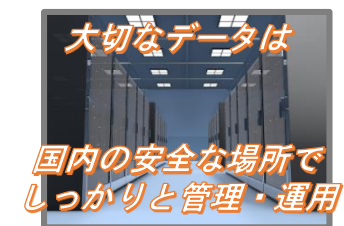
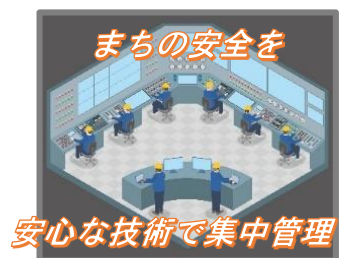
# 「スーパーシティ」構想について ①未来像・実装技術

- 世界の動きを踏まえ、10月23日の国家戦略特区諮問会議において、**安倍総理より**、第四次産業革命を体現する世界最先端都市を、先行実施する**「スーパーシティ」構想について、基本的なコンセプトを取りまとめるよう指示**。
- 11月26日には、「「スーパーシティ」構想の実現に向けた**有識者懇談会**」（座長：**竹中平蔵教授**）が**中間とりまとめ**を実施。
- 「スーパーシティ」では、行政手続のワンズオンリー、キャッシュレス、自動走行・自動配送、遠隔医療・介護や遠隔教育などの取組を、**分野横断的なAIやビックデータの仕組みを活用することによって、都市に実装することを目指す**。

全ての行政手続を、  
個人端末で効率的に処理。

エネルギー、上下水、リサイクル  
などをコミュニティ内で最適管理。

全てキャッシュレス。  
エリア内は現金不要。



(サーバーのローカライゼーション)

全ての医療・介護を  
かかりつけから在宅で。

全ての住民・子どもに  
世界最先端の教育環境を。

いつでもどこでも必要な  
移動・配送サービスを提供。



ビックデータ解析

AIの活用

# 「スーパーシティ」構想について ②支える仕組み

- 物理的な都市インフラから、サービスを伴う情報インフラまで、統合的かつ最適な形で、都市に実装することが課題。その実現には、強力なサポート企業と、強力な首長・自治体によるサポートを得ること、更には、**住民合意など積極的な住民参画とそれを前提とした極力柔軟なルール作りを認める制度整備が成功の鍵。**
- このため、**実現すべき制度整備の詳細を、極力早期に固めるとともに、Society5.0をはじめとする関係府省の取組と連携しつつ、実装すべきインフラ整備の内容の詳細を固め、**来年夏以降、エリアの選定・公募に向けて動き出す。

